

2015年2月12日
【第6回知の市場年次大会】
開講拠点と開講機関

東京・西早稲田(1)労研 (労働科学研究所・早稲田大学規 範科学総合研究所)

公益財団法人労働科学研究所
北島洋樹

1

労働科学の生い立ち



労働科学とは、働く人々の安全と健康に資するための総合科学
(医学、心理学、化学、心理学、工学、社会科学・・・)

労働科学研究所は二人の出会いから 始まった

大原孫三郎

(画: 中沢弘光、部分)



1920年、深夜の工場抜き打ち視察

働く人の安全と健康を守るための研究と
実践を目指す

暉峻義等

(画: 田中謹左右)



倉敷労働科学研究所時代

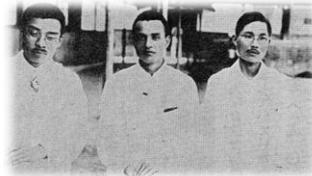


工場の敷地内に立地、女工らと寝
食を共にデータを収集した



労作中の呼気採取風景

大正9年（1920）夏の昼夜交代作業の予備調査



桐原葆見 (28) 暉峻義等 (31) 石川知福 (29)
(心理学) (生理学) (衛生学)



海女の潜水の生理学的研究

1960年代～1990年代



航空管制官の労働負担調査
(1960年代)



ダイカスト工場における職場環境調査



本四架橋工事落下防止調査



VDT作業の健康影響調査

現在

教育
研修
事業



セミナーでのグループワーク
(職場環境改善とメンタルヘルス)

調査
研究
事業



大型発電所における当直勤務評価研究

国際
協力
事業



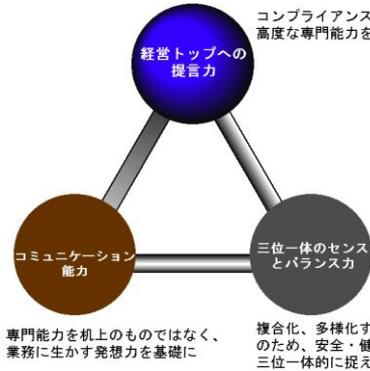
ヴェトナム農村の生活調査

出版
事業



出版部刊行物 (単行本、学術雑誌、普及誌)

産業安全保健分野の 人材養成の考え方と目標



- **三位一体アプローチ**による統合視点を重視
(現場状況の適切な把握と、
問題解決ができる)
- **トップへの提言力**をもつ
ことができる(安全保健
が経営の要件であることを
発信できる)
- **CSR概念**を具備し、実践
できる

7

本養成コースが要求する コンピテンシー (専門能力)

- 経営戦略としての安全保健活動についての理解
- 安全文化の評価法と組織改善に関する理解と実践
- 働き方や休養の取り方と過労・メンタルヘルスの
関連を分析し、有効な対策を提案する能力の構築
- 化学物質の危険有害性に関するリスクアセスメン
トやリスクコミュニケーションの考え方と手法の理
解
- 三位一体アプローチに基づく安全保健活動の理解
とリーダーシップの発揮

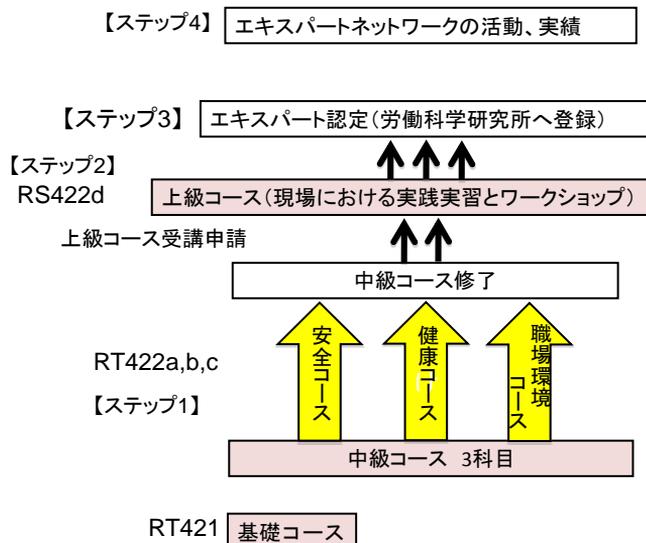
8

2015年度開講科目

科目番号	科目名	副題	拠点（開講機関）
共催講座 RT 4 2 1	労働科学	産業保健の基礎：労働科学の歴史と展開	東京・西早稲田（1）労研 （労働科学研究所、早稲田大学規範科学総合研究所）
共催講座 RT 4 2 2 a	労働科学特論a	産業安全保健エキスパート養成コース（安全）	
共催講座 RT 4 2 2 b	労働科学特論b	産業安全保健エキスパート養成コース（健康）	
共催講座 RT 4 2 2 c	労働科学特論c	産業安全保健エキスパート養成コース（職場環境）	
関連講座 RS 4 2 2 d	労働科学特論実習1	産業安全保健エキスパート養成最終コース（現場実習）	神奈川・川崎宮前区（労働科学研究所）

9

各科目の関係 （産業安全保健エキスパート養成コース）



RT422abc: 共通講義の仕組み

共通講座(I)	1	オリエンテーション				
	2	総括的講義/労働安全衛生の動向				
	3	総括的講義/労働安全衛生関連法令				
	4	経営トップ講義				
		RT422a(安全)	RT422b(健康)	RT422c(職場環境)		
講義	5	ヒューマンファクターにおけるコミュニケーションの重要性	5	職場環境改善を通じた働きやすい職場づくり	5	化学物質管理
	6	緊急時対応の実際	6	健康へのアプローチと作業負担の	6	安全衛生マネジメントシステム
	7	技術者倫理とコンプライアンス	7	健康へのアプローチと作業負担の	7	職場環境測定・評価
	8	心理測定の基礎	8	新しい精神障害認定基準の解説と	8	日本の化学物質管理に欠けている
演習	9	安全文化の本質とその醸成	9	現代労働者の疲労回復に必要な睡	9	もの-GHSから考えるー
	10	課題の実施	10	オフィスエルゴノミクス	10	職場環境対策
	11	事故分析実習	11	ユーザビリティ評価の方法	11	環境リスクアセスメント
講義	12	総合的マネジメントと社会的責任	12	増え続ける筋骨格系疾患への対応	12	保護具の有効活用
	13	安全工学による産業安全向上	13	産業保健の取り組み-新型インフル	13	
ケーススタディ	14	産業事故の原因を探る	14	エンザへの取り組み経験を活かすー	14	熱中症対策
	15		15	職場における健康リスクの同定と理	15	
共通講座(II)	16	実践実習				
	17	グループワーク				
	18					
	19					
	20	ワークショップ				
	21					
	22					
23						

グループワーク、ワークショップでは、修了者(エキスパート)が多数ボランティア的に参加

コース・共通講義の効果 : 異業種交流



- 他業種の方のものの方が大変参考になった
- 自社・或いは同業種では思いも寄らない視点に刺激を受けた
- 修了後も連携しやすかった

コース・共通講義の効果： 様々な世代の参加



- 会社では(恐らく)対等には話せない、目上の方とも、同じテーマについて語り合えた
- (最近若い奴は)ということを感じることなく接することが出来た

(アラサーからアラカンまで) 一種の異文化交流

13

コース・共通講義の効果： 同じ釜の飯



- 地方からの参加で、最初は夕食も1人でとっていたが、いつしか(都内の参加者も)つきあってくれるようになった
- 夜の部では、より腹を割った議論が出来た
- 同期の連帯感を得ることが出来た

同期の桜 (この桜は散りません)

14

2014年度実績

2014年度	科目名	科目No.	申込者	受講者	修了者	
前期	労働科学	RT421	8	8	7	確定
後期	労働科学特論a	RT422a	8	8	8	見込
後期	労働科学特論b	RT422b	13	13	13	見込
後期	労働科学特論c	RT422c	9	9	8	見込
関連講座	労働科学実習1	RS422d	9	9	9	見込

知の市場からの受講者が増加
 全体として受講者は増加傾向
 上級コース（RS422d）の希望者が増加

15

エキスパートネットワーク

エキスパートの継続的な 能力アップ支援

- 追加教育の実施
- 異業種交流の促進
- ネットワークと情報共有
（修了者／企業・講師・労研）

エキスパートとの共同事業

- 企業での課題解決支援
エキスパートの活躍の場の確保
- エキスパートとしてのキャリア
モデルの構築
- 中小企業への独自事業展開

エキスパートによる自主運営の支援

16

エキスパートネットワークの活動

①ネットワークの会(年一度の総会)

2014年8月29日(金)／電源開発株式会社 磯子火力発電所
発電所の見学、エキスパート活動報告／参加者29名

②懇親会

2014年10月23日(木) 広島
「安全衛生大会」参加者による集い／参加者12名

③見学会の開催

2014年12月24日(水)／日本電子株式会社
電子装置の見学／参加者6名

④その他

随時、修了者ネットワークによる、情報交換、研究会、懇親会の開催。

17

エキスパートネットワーク 新しい成果の一例

- 椎名和仁, 北島洋樹
屋外と屋内での電気通信工事現場における
ヒヤリ・ハットの比較分析(第2報)
—転落・転倒災害に関する作業内容と
の要因分析—、労働科学, 89(4), 140~148
, (2013)
- 多田 恵, 松田文子
高年齢労働者の活躍を促す取り組みに関する
事例研究、労働科学, 89(4), 149~153,
(2013)

18

今後の課題

- 受講者の拡大
- 受講者にとって魅力のあるエキスパート活動の一層の活性化
- 中小企業を対象とした新しい試みの展開
- エキスパートへの継続的な修練環境の提供